S1B1
今、なぜバイオベンチャー

〇根本 直人（株）ジェンコム

ヒトゲノム計画に始まるゲノム科学は生命科学の産業化に向け、確実に大きな流れを形成した。同時にそれは、最大のゲノム情報が「知識・理解」をもたらすと同様、製薬業界の革新を支える重要な要素となり得るものと期待されている。そこで、生物物理科学の分野は、大きな研究動員を必要とする。その重要性は以下のように示唆されている。

1. 日本における必要性
2. ベンチャー企業の未来

S1B2
ベンチャー・ビジネス論

〇阪直 直樹（あそぎ銀行

ベンチャー活動は急速に活発化する中で、各大学・大学院においても「ベンチャー経営論」の講座を設け、経済学的な見地からベンチャー経営の本質を追求する研究活動が行われている。ベンチャーと呼ばれる研究者や企業は、日本の原子力発電所において、国内経済学研究者による視点が見出されるように、ベンチャービジネス活動には、新技術の発展が新たなルールを定め、ベンチャー企業と一体に起業する必要がある。その問題点は、ベンチャー企業の成長を阻む要因を考察し、ベンチャー・ビジネス論の位置づけを示す。

S1B3
日本におけるベンチャー立上げに関する課題と提案～これまでの経験を通して感じること～

〇小原 利克（株）ジェンコム

革新的なバイオ・テクノロジーのための研究開発として、バイオベンチャー企業の構築が注目されている。しかし、日本の産業界においては、バイオベンチャー企業の成功が経済的な原動力となり得ることを強く認識している。

S1B4
産学官連携と大学発ベンチャーの意義

〇森下 竜一（大阪大学・大学院 人文社会系）

ヒトゲノム計画解読の基礎研究、遺伝子やバイオテクノロジーの研究が急速に進展し、革新的な診断・治療法や新しい分野が現れつつある。次世代の産業革新が加速化する中で、産学官連携に求められていることが重要である。その目的は、大学発ベンチャーの実現を促進し、産業界における新たな成長を促進するためである。

K.Kohayashi：Some unfavorable things encountered in starting up small innovative companies in Japan

R.Morishita：Role of University-Spin off Venture from a Viewpoint of Academia Government Industry Partnership

N.Iyama：Start-up Enterprise in Venture Business